

〔課題演習報告〕

特別支援学校における校内研修の充実に関する研修  
ー専門性向上のための「キャリアアップ研修」の取組を通してー

栗 原 正 旨  
Masashi KURIHARA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻学校運営リーダーコース  
福岡県立小郡特別支援学校

(2017 年 1 月 6 日受理)

特別支援学校ではセンター的機能として、特別支援学校教師の教育上の高い専門性を生かし地域の小・中学校を積極的に支援していくことが求められている。そのためには特別支援学校の全ての教師がその専門性を有していなければならない、専門性を高めるための研修機会が考慮されなければならない。

本研究は、特別支援学校の教師に求められる専門性の向上を図る「キャリアアップ研修」の取組を通して、特別支援学校における充実した校内研修の在り方を究明することを目的としている。そこで、教師のニーズを把握した研修、組織化された中で運営される研修、学ぶべき内容が精選された研修の3つの観点から「キャリアアップ研修」に取り組んだ。その結果、教師の専門性の向上、校内研修の充実に一定の成果が得られた。

キーワード：特別支援学校、校内研修の充実、専門性向上、キャリアアップ研修

## 1 主題設定の理由

### (1) 社会の要請から

平成24年7月の中央教育審議会における特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告では、インクルーシブ教育システム構築のため現職教師は特別支援教育に関する一定の知識・技能を有していることが求められること、研修等により特別支援教育に関する基礎的な知識・技能の向上を図る必要があると示している。また、学校教育法第74条では、特別支援学校のセンター的機能の役割として地域の小・中学校を支援していくことが記されている。これは特別支援学校の校内研修を充実したものにするため、研修の企画運営を効果的に編制していく必要があることを示唆している。

### (2) 福岡県立特別支援学校の実情から

福岡県内には20校の県立特別支援学校では、教師は50歳代後半が多く大量退職期を迎えている。それに伴い、ここ数年は特別支援学校卒での新規採用者が増え、当面は更に増加傾向にある。一方で、ミドル層と言われる30歳代、40歳代が少なく、瓢箪型の偏った年齢構成が進んでいる。その

ため世代交代の急速な進展に対応して、優秀な人材の確保や教師の職務能力や専門性の一層の向上が求められている。

### (3) 在籍校における課題から

本校の課題の一つは、地域のセンター的機能を果たすための教師全体の専門性の向上である。全教員が多様な研修機会を通じて専門性を高め、学校全体で地域全体をサポートしていくことが必要である。今後のインクルーシブ教育システムの構築に向け特別支援学校が担う役割は非常に大きくなることから学校全体の専門性を高めていくことは従来以上に急務であると言える。

これまで本校では専門性の向上に関する研修は、主体的な学習会として実施してきたが、希望参加型の研修であり、学校全体の研修として組織的に展開できていない、研修のニーズを把握していないなどの課題が見られていた。

これらの課題の背景には、教師のキャリアの多様性が起因している。人事異動に伴い、毎年地域の小学校、中学校及び高等学校から異動してくる教員が多く、特別支援学校に初めて勤務することになる。これらの教師を対象に新転任者研修が義務化されているが、年度初めの慌ただしい時期で

もあり、充実した研修になっているとは言い難い。近年では新規採用教員の増加や講師への対応も求められる。これらの実情から特別支援学校の教員としての専門性を高めるための校内研修を充実させる方途に関する研究が必要であると考えた。

#### (4) 先行研究から

静岡県総合教育センター（2008）による「校内研修の活性化に関する調査」は、県内の小・中・高・特別支援学校の研修主任を対象に調査を行った数少ない先行研究であるが、校内研修の実情や課題を学校種ごとに明らかにしている。主な調査結果は図1に示す通りである。

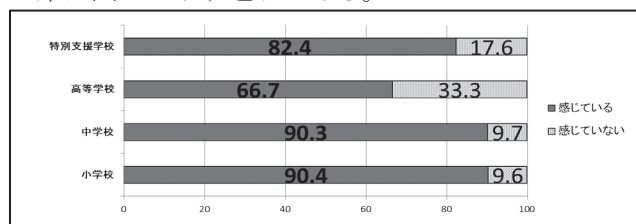


図1 校内研修の改善の必要性

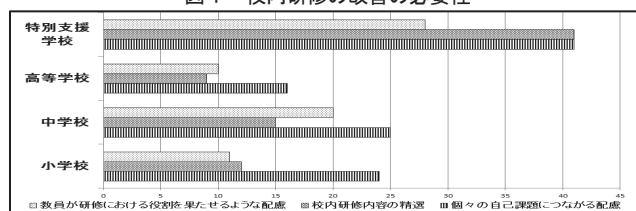


図2 改善したいと思っている点

他の学校種と特別支援学校とを比較すると、約8割もの特別支援学校の研修主任が、校内研修の改善が必要であると感じている。具体的改善内容の質問の項目として、図2に示すように「教員が研修における役割を果たせるような配慮」「校内研修内容の精選」「教員個々の自己課題につながる配慮」において特別支援学校では高い割合となっていた。

砂田・是永（2009）らは特別支援学校における校内研修の具体的改善点は、教師のニーズに合った研修内容の精選や積極的な参加ができるような工夫が必要であると述べている。そのためには特別支援学校における、校内研修を充実させる方途について論究される必要があると考えた。

## 2 研究主題・副題の意味

#### (1) 「特別支援学校における校内研修の充実」とは

特別支援学校の校内研修に関する調査研究の内容を踏まえ、本研究では校内研修の充実について次の3つの観点で定義する。①教師のニーズを把握した研修であること。②組織化された中で運営する研修であること。③学ぶべき内容が精選され

た研修であること。また、これらの具体的目標を表1に示す。

表1 校内研修充実のための3観点における目標

①教師のニーズを把握した研修
○アンケートを実施し、本校職員の研修に対するニーズを把握し充実したものにしている。
②組織化された中で運営される研修
○係を中心に研修に参加しやすい校内体制や研修の講座を依頼する先生との連携を整え、充実したものにしている。
○RVPDCAサイクルに沿ってキャリアアップ研修を運営し、充実したものにしている。
③学ぶべき内容が精選された研修
○本校に求められる専門性に準じた研修内容で実施し充実したものにしている。
○身に付ける専門性を細分化したキャリアデザインに沿った研修内容で実施し充実したものにしている。

#### (2) 「専門性」とは

特別支援学校で求められる教師の専門性を太田ら（2002）、湯浅ら（2008）は、表2、表3のように示している。

表2 太田による特別支援学校教師による専門性

項目	内容
感性豊かな人権意識と責任感	障害のある子どもに、人としてきちんと向かうことのできる感性豊かな人権意識と責任感を持つこと。
ニーズに即応した学校生活の実現	子どもが願う学校生活に関心を持ち、その実現に向けてよりより支援に努める誠実な姿勢を持つこと。
子どもの特徴と支援ニーズの理解	実際の実習体験などを大事に、知的障害・発達障害の子どもの特徴を体験的にも、知識の上でも理解すること。
指導法・支援方法の妥当な実施	実際の実習体験などを大事に、知的障害教育での指導法や支援方法の特徴を体験的にも、知識の上でも知り、実地にできるように努めること。
学校外の動向・人々の関心と連携	学校教育以外での教育界動向、教育以外の障害分野の動向、保護者や関係者の思いや動向に関心を持ち、かかわりを持つように努めること。

表3 湯浅らによる特別支援学校教師による専門性

項目	内容
障害に関する基礎的知識	児童生徒の行動をより理解するための障害に対する基礎的知識
障害の実態に応じた適切な指導	臨機応変な対応、指導や支援に対する的確なアドバイス、学習の困難さを乗り越えて授業を展開していく力量
アセスメントする力	心理的アセスメント、テスト法などアセスメント技術の限界と可能性の理解
学校内外と連携する力	チーム・ティーチング、保護者との連携、コミュニケーション能力

太田・湯浅らの研究をもとに協議し在籍校で求められる専門性を以下の表4に示す①～④とした。

表4 在籍校で求められる専門性

専門性	具体的内容
① 障害特性理解力 (障害に関する基礎的知識)	・ 障害の特性を理解すること。(発達障害の理解、自閉症児の特性の理解など)
② 指導・支援力 (個々の実態に応じた指導支援や教材教具の作製)	・ 実態に応じた授業を展開すること。 ・ 的確な指導、支援を行うこと。
③ 実態把握力 (アセスメントの実施、解釈)	・ 児童生徒の実態を的確に把握すること。 ・ 客観的実態把握をすること。(WISC-III、田中ビネー知能検査など)
④ 連携力 (関係機関との連携)	・ 保護者や関係機関と連携を図り関係づくりにも努めること。

## (3) 「キャリアアップ研修」とは

「キャリアアップ研修」とは、表4に示した専門性の向上に特化した内容で実施する研修のことである。この「キャリアアップ研修」の運営に当たっては、表1の「研修を充実させるための3つの観点」を目標に、マネジメントサイクル（RVPDCAサイクル）に基づいて行うようにする。（研究構想図を図3に示す）

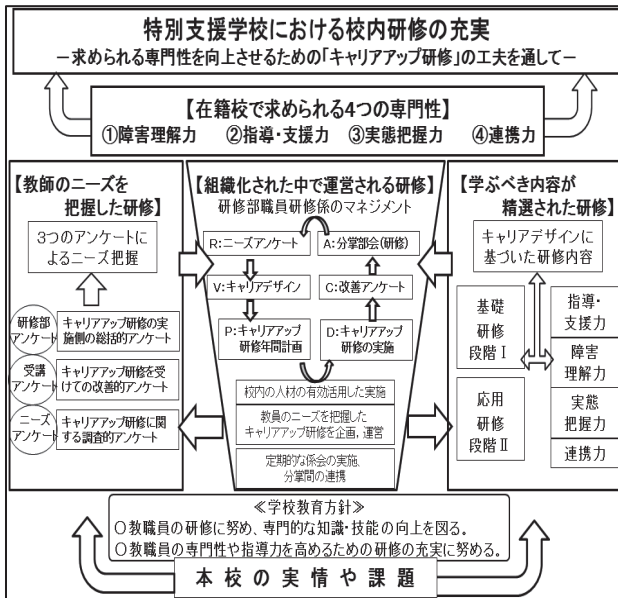


図3 研究構想図

Rとして教師の研修に対するニーズを把握するためのアンケートを実施する。Vとして、特別支援学校の教師としての具体的目指す姿が明確になるように、4つの専門性に沿ったキャリアデザインを作成する。Pとして、Rで得た研修に対するニーズを基にキャリアアップ研修計画を作成する。Dとしてキャリアアップ研修を実施する。本年度は、表3の4つの専門性に対して表5の研修を実施する。内容は2つのキャリア段階（段階Ⅰ基礎編と段階Ⅱ応用編）に応じて計画、実施する。

表5 本年度のキャリアアップ研修テーマ

- 障害特性理解力…「発達障害について」
- 指導支援力…「ICTを活用した指導支援の工夫」
- 実態把握力…「WISCⅢの理論と実際」
- 連携力…「昨今の法令整備と進路先との連携」

C及びAとして、運営側の研修部に「研修部アンケート」と受講した教師に「受講アンケート」を行い、キャリアアップ研修を総括的に振り返り、次年度の運営に役立てるようにする。

尚、これらの運営の中心を担うのは「研修部職員研修係」とする。

## 3 研究の目的

特別支援学校の教師に求められる専門性の向上を図る「キャリアアップ研修」の取組を通して、特別支援学校における充実した校内研修の在り方を究明する。

## 4 研究の仮説

キャリアアップ研修を「教師のニーズを把握した研修」「組織化された中で運営される研修」「学ぶべき内容が精選された研修」の観点から実施すれば、特別支援学校における校内研修が充実し、教師の専門性の向上が図られるであろう。

## 5 課題説明の具体的方策

本研究では研修部職員研修係をサポートしながら、キャリアアップ研修を運営する。具体的には以下の通りである。

- (1) 「教師のニーズを把握した研修」にするためのアンケートの実施
- (2) 「組織化された中で行う研修」にするために行う研修部職員研修係会のマネジメント
- (3) 「学ぶべき内容が精選された研修」にするためのキャリアデザインに基づいた研修内容の充実

## 6 研究の実際

- (1) 教師のニーズを把握した研修にするためのアンケートの実施

昨年度のキャリアアップ研修を総合的に評価するために、運営に携わった研修部のメンバーと昨年度キャリアアップ研修を受講した教師にそれぞれ研修部アンケートと受講アンケートを行った。また、本校職員の個々の専門性を把握するためのアンケートを同時に行った。

## ① 研修部アンケート

校内研修を充実させるための3つの視点「組織化された中で運営される研修」「学ぶべき内容が精選された研修」「教師のニーズに把握した研修」についてのアンケートを行った。その結果を表5に示す。

＜組織化された中で運営される研修についての考察＞

キャリアアップ研修を運営する研修部職員研修係が他分掌と連携系を図りながら、実施できたことがうかがえる。校務分掌組織に明確に位置づけたことで役割が明確となり、また、研修部内でも



表6 研修部アンケート結果(2016年2月実施)

キャリアアップ研修	取組指標	基準	評価欄(人)	成果指標	基準	評価欄(人)	自由記述欄
・組織化された運営	○ 職員研修係を中心に、研修に参加しやすい校内体制や研修の講座を依頼する先生との連携を整え、充実したものにしている。	A 充実している B 充実していない	7 1	○ 連携と調整が図られたことによる実施状況	A とても円滑であった B 円滑であった C 困難であった D とても困難であった E 分からない	6 2	・連絡指導部、支援部の先生に講師を依頼し話を聞いたことはなかった。 ・他の分野と連携できたのはよかった。
・研修内容	○ 特別支援学校に求められる専門性に準じた研修内容で実施し、充実したものにしている。	A 充実している B 充実していない	7 1	○ 研修の受講者数や受講実施回数	A とても多い B 多い C 少ない D とても少ない E 分からない	3 4 1	・適当である ・全員が参加する研修を増やすべき ・希望者のみであったため職員全体の向上にはつながらなかった ・基礎的講座を設けるべき
	○ 身に付ける専門性を細分化したキャリアデザインに沿った研修内容で実施し、充実したものにしている。	A 充実している B 充実していない	5 3	○ 研修講座の内容を授業や指導の改善に生かした先生方の取組の状況	A 大きな変化が見られた B 変化が見られた C 今後変化が期待される D 変化がない E 分からない	1 4 3	・変化までの道筋はできていない ・授業の取組を全体に発表する場があるなどよい ・なるほどと納得されているが、授業に生かしているかは疑問 ・研修内容に一貫性がほしい
・ニーズの把握	○ アンケートを実施し、本校職員の研修に対するニーズを把握し、充実したものにしている。	A 充実している B 充実していない	5 3	○ アンケート結果を反映している研修講座の開発数	A とても多い B 多い C 少ない D とても少ない E 分からない	5 1 2	・アンケートによるニーズ把握がしっかりできていない。 ・アンケートの工夫が必要

係りのチーフや研修主任を中心に組織化された運営を行うことができた。

＜「学ぶべき内容が精選された研修」についての考察＞

アンケート結果から研修内容を改善できたが、実施回数や参加者数に課題が見られた。職員の参加希望を重視した結果となったが、研修部では全教師対象の研修機会を設定していく必要性を感じている。教師へキャリアの見通しや研修の必要性を喚起するキャリアデザインであったが、周知されていないことも課題として挙げられた。また研修実施後の教師の変容は把握できていない。授業実践での検証等が求められる。

＜「教師のニーズを把握した研修」についての考察＞

アンケートを実施したことでその結果を反映させた研修内容を企画、実施することができたと感じている。一方で、アンケート結果から十分なニーズの把握ができなかったと考える研修部職員もいることからアンケート内容の改善が求められると考える。

② 教師の専門性（自己評価）について

昨年度実施した専門性に関するアンケート調査

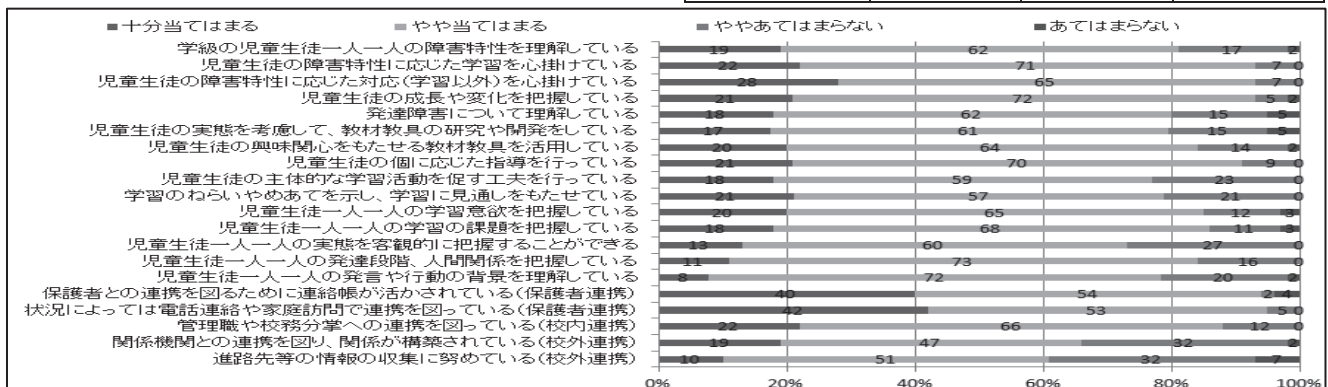


図4 在籍校教師の専門性に関する調査結果(2015年7月実施)

の結果を図4に示す。また、今年度は表4に示した在籍校で求められる専門性をもとに、表7に示すキャリアデザインを作成し、これを指標としてアンケートを実施した結果を表8に示す。

＜専門性に関するアンケート結果の考察＞

比較的専門性の高いと自己認知する教師が多いことを示しているが、専門性の指標があいまいであること、4つの専門性に即していないことなどの課題が見られた。どの専門性においても段階Ⅰ(若年層研修レベル)の教師が最も多く、段階Ⅲ(マスターレベル研修)が少ない結果となった。この結果を受け、特別支援学校教師に求められる専門性4つに対し、初年度の取組であることを考慮して、マスターを対象とした研修を除いて、ミドル、若年の2段階での研修が効果的であろうと考えて実践に取り組んだ。

表7 身に付けるべき専門性(キャリアデザイン)

(福岡県立小郡特別支援学校教師が身に付けるべき専門性(キャリアデザイン))

段階	【障害理解力】 ○児童・生徒の持つ障害の特性を理解する力 ○児童・生徒の成長や変化を障害の特性の側面から分析する力	【実態把握力】 ○児童・生徒の思いを理解し、良好な関係を築く力 ○児童・生徒のことを主観的に捉え、分析する力 ○児童・生徒の実態を客観的に捉え、科学的に分析する力	【指導・支援力】 ○教材・教具を開発する力 ○児童・生徒の実態に応じた授業をデザインする力 ○児童・生徒の興味関心を引き出す取組を構築する力	【連携力】 ○保護者・関係機関に適切に対応する力 ○保護者・関係機関と連携を取り、課題解決に向けて取り組む力 ○職員と円滑にコミュニケーションをとる力
段階Ⅰ 【若年層研修】 学習指導や支援における特別支援学校の教師としての基礎的な力を身に付ける。	○児童・生徒の持つ障害の特性について理解し、授業づくりや教室環境づくりに活かすことができる。 ○児童・生徒の成長や変化が分かり、指導に活かすことができる。	○児童・生徒の健康状態、実態を理解することができる。 ○児童・生徒の課題を把握し、適切なアセスメントを実施することができる。	○教材・教具を開発し、活用することができる。 ○児童・生徒の実態に応じた学習計画を立て、授業を行うことができる。	○保護者・関係機関と適切に対応する力 ○保護者・関係機関と連携を取り、課題解決に向けて取り組む力 ○職員と円滑にコミュニケーションをとる力
段階Ⅱ 【指導者研修】 特別支援教育における知識や経験に基づく実践力を高め、先達教師としての助言できる力を身に付ける。	○児童・生徒の持つ障害の特性について理解を深め、授業や教室環境を整えることができる。 ○児童・生徒の成長や変化を客観的に捉え、指導に活かすことができる。	○児童・生徒の健康状態や実態を理解し、個々の指導や支援を行うことができる。 ○児童・生徒の障害に関連したアセスメントの結果から指導や支援の方法がわかる。	○実態に応じた教材・教具を作成し、児童・生徒の課題解決に向けた取組を工夫して行うことができる。 ○児童・生徒の実態や興味関心に関連した授業を計画し、行うことができる。	○保護者・関係機関と適切に対応する力 ○保護者・関係機関と連携を取り、適切な助言や情報提供を行うことができる。 ○管理職や教員に対して、必要な情報を集め、提案ができる
段階Ⅲ 【マスターレベル研修】 特別支援学校の教師としての専門性をさらに高め、同僚や若手教師へ指導を行ったり、積極的な校外支援をしたりすることができる力を身に付ける。	○児童・生徒の障害の特性を十分に理解し、他の教師の指導や支援に対して助言することができる。 ○発達障害について理解し、センター機能としての本校の役割に貢献することができる。	○児童・生徒の希望や課題を的確に把握し、個々の指導や支援を行うことができる。 ○これまでのアセスメントの結果から指導や支援に関する業務を行うことができる。	○教材・教具に改良を加え、よりよい教材教具の在り方を追求することができる。 ○児童・生徒にできる喜び、わかる楽しさを味わわせ授業を行うことができる。	○保護者や関係機関に対して、自身の考えを明確にし、協働できる関係を築くことができる。 ○課題を捉え、管理職や教員に対して、問題提起ができる。

表8 専門性に関するアンケート実態調査の結果(2016年4月実施)

障害特性理解力	指導・支援力	実態把握力	連携力
段階Ⅰ 53%	段階Ⅰ 53%	段階Ⅰ 55%	段階Ⅰ 55%
段階Ⅱ 57%	段階Ⅱ 45%	段階Ⅱ 43%	段階Ⅱ 43%
段階Ⅲ 0%	段階Ⅲ 2%	段階Ⅲ 2%	段階Ⅲ 2%

③ 昨年度 (H27) のキャリアアップ研修について  
昨年度 (H27) の研修を振り返るため、図5に示す  
受講アンケートを行った。

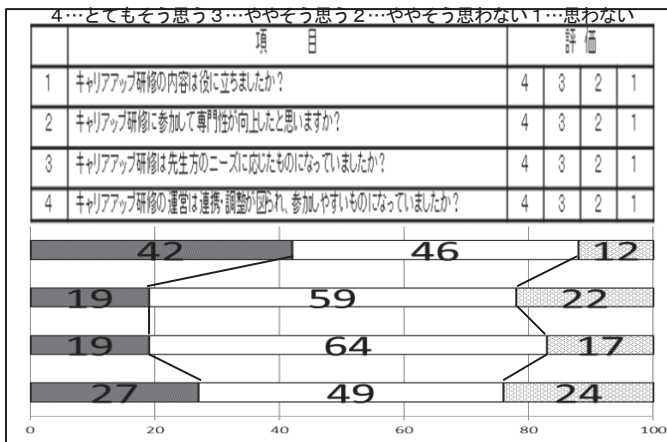


図5 昨年度のキャリアアップ研修に関するアンケート結果  
＜受講アンケートの考察＞

項目4のキャリアアップ研修の運営についてやや評価が低い。実施時期の検討や参加しやすい研修にするための工夫や教務主任との日程の調整が課題であると考え。また、項目2の専門性の向上については2番目に低くなっている。研修で学んだことや得たことを実感できるための工夫や研修後の授業実践での検証等が必要になると考える。

④ 今年度 (H28) のキャリアアップ研修について  
今年度 (H28) の研修に対する教師のニーズを把握するために図6に示すニーズアンケートを行った。

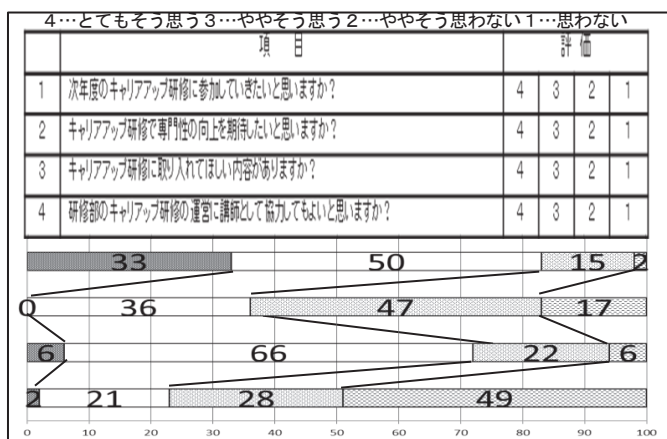


図6 今年度のキャリアアップ研修に関するアンケート結果  
＜ニーズアンケートの考察＞

項目1、項目2のキャリアアップ研修に対する意欲や期待には二極化がうかがえる。魅力ある研修を企画することで改善していきたいと考える。項目4の講師としての協力については非常に低く、講師となる人材の確保が課題である。また、項目3のキャリアアップ研修で取り入れてほしい内容

としてはICT、発達障害や自閉症、教材教具の開発、発達検査等があげられていた。

(2) 組織化された中で運営研修される研修にするための研修部職員研修係会のマネジメント

ニーズアンケート調査の結果を踏まえて、キャリアアップ研修に向け、定期的な研修部職員研修係会を行った。実施した研修部職員研修係会の中からキャリアアップ研修実施に至るまでの主な4回の実際について記す。

#### ① キャリアアップ研修係会①

表9 研修部職員研修係会①の概要

期日：平成28年4月7日（木）16:00～17:00
内容：・キャリアアップ研修と本研究の説明 ・今年度のキャリアアップ研修に関するアンケート結果の分析と本年度のキャリアアップ研修の在り方や研修で取り上げる内容について検討

#### ＜研修部職員研修係からの意見＞

- ・ニーズアンケートの結果をみると、WISC-Ⅲ、ICT、進路関係、発達障害をテーマにして、講師となる人材は、専門性やこれまでの経験から校内の支援部が望ましい。
- ・実施を夏期休業中に集中して、参加しやすい環境を少しでも作りたい。

#### ＜研修部職員研修係会①の考察＞

事前のニーズアンケートを実施したことで、教師の学びたいテーマが明確になったと考える。また、研修の中身だけでなく、実施方法に関するニーズも把握し、検討することができたと考える。

#### ② 研修部職員研修係会②

表10 研修部職員研修係会②の概要

期日：平成28年4月19日（火）16:00～17:00
内容：・キャリアアップ研修計画の作成。 ・研修後の教師の変容や専門性の習得についてどのように検証するかを検討。 ・講師の選定や依頼について。

#### ＜研修部職員研修係からの意見＞

- ・本校教師の専門性の実態から、基礎編と応用編のように1つのテーマに対して2分して実施するとよりニーズに迫ることができると思う。
- ・研修を受けた教師の変容を取る必要があり、研修の事前と事後に同様のアンケートを実施して比較してみてもどうか。
- ・進路関係の研修は情報量と経験の豊富な進路部に依頼するようには。

#### ＜研修部職員研修係会②の考察＞

教師の専門性に関する実態を調査したことで、基礎編と応用編に分けて実施するなど個々のニーズにより応じた効果的な研修の在り方を検討することができた。また、研修の講師には、校内人材を活用し実施していくことで、校内で互



いに学び合う研修として、キャリアアップ研修計画の作成に至ったと考える。

表 11 キャリアアップ研修計画

専門性	①障害理解力	②指導支援力	③実態把握力	④連携力
テーマ	発達障害の障害特性とその理解	I C T を活用した授業作り	WISC－Ⅲの実施及び解釈	法令関係と進路先との連携について
実施予定日	6月17日	7月29日	8月22日	7月28日
講師	支援部 中尾 尾崎	清田 小屋松	柳 尾崎	進路部 山口
実証授業の授業者		中学部 1名	小学部 2名	
実証授業の内容		授業者と協議の上	授業者と協議の上	
実証授業でのサポート	授業者に、必要に応じて機器の使い方を助言したり、活用方法を一緒に検討したりする。		必要に応じて WISC－Ⅲの実施やその結果の解釈する際のポイントを助言する。また、結果から対象児童への支援方法等を一緒に検討していく。	

### ③ 研修部職員研修係会③

表 12 研修部職員研修係会③の概要

期日：平成28年5月10日（火）16:00～16:45
内容：・基礎編と応用編のどちらに参加するかを選択する方法について ・キャリアアップ研修実施までの日程及び業務内容の確認等 ・講師との連携について

#### <研修部職員研修係会からの意見>

- ・基礎編と応用編に分かれて実施するようにしたが、希望するに当たって、キャリアデザインと共に、より研修のテーマに特化した具体的な指標となるアンケート等を作成する必要がある。
- ・アンケートの結果をもとに講師と密に連携を取り、研修の内容を検討していかなければ。

#### <研修部職員研修係会③の考察>

研修テーマを検討する際、ニーズを把握するための事前アンケートの効果があったことで、さらにアンケートを実施し、基礎編と応用編を選択するための指標とする意見が出されたと考える。

### ④ 研修部職員研修係会④

表 13 研修部職員研修係会④の概要

期日：平成28年5月24日（火）16:00～16:50
内容：・基礎編と応用編の参加の指標となるアンケートについて ・講師との研修内容の検討について

#### <研修部職員研修係会からの意見>

- ・研修テーマに関するアンケートをとり、それをもとに基礎編か応用編かを受講する指標としてはどうか。
- ・研修内容は講義だけではなく、演習を取り入れたり、小グループで協議したりする参加型研修にしていこうと講師と打ち合わせていく必要がある。

#### <研修部職員研修係会④の考察>

研修内容に関しても積極的な意見が出されるなど、主体的な係会となっているのがうかがえる。

(3) 学ぶべき内容が精選された研修にするためのキャリアデザインに基づいた研修内容の充実

職員研修係会を経て、4回のキャリアアップ研修を実施した。その中から「発達障害の障害特性とその理解」「ICTを活用した授業」について記す。

#### ① 第1回キャリアアップ研修


実施にあたり本校教師の発達障害についての理解や経験等を詳しく知るために表14に示す事前アンケートを行った。YESかNOかで答えるようにした。

表 14 事前事後アンケートとその結果（上段が事前、下段が事後）

質問項目		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
事前	① 発達障害という言葉を知ったことがある。	YESの割合	100	58.5	43.9	58.5	56.1	48.8	53.7
	② 知的障害を伴う自閉症について理解している。	YESの割合	100	58.5	12.2	9.8	29.3	9.8	15.5
事後	③ 知的障害を伴わない自閉症について理解している。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	④ ADHDについて理解している。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑤ LDについて理解している。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑥ 高機能自閉症について理解している。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑦ アスペルガー症候群について理解している。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑧ 発達障害の児童生徒に対して、適切な実態把握（アセスメント法）がわかる。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑨ 発達障害の児童生徒に対して、何らかの発達検査を行ったことがある。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑩ 発達障害の児童生徒に対して、適切な指導及び支援を行うことができる。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑪ 発達障害の児童生徒を担当した経験がある。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑫ 発達障害に関する小中学校及び高等学校での教育相談に対応することができる。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑬ 発達障害に関する小中学校及び高等学校での教育相談を担当したことがある。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑭ 発達障害の児童生徒の事業を聞いて、自分なりのアドバイスができる。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑮ 発達障害者支援法について理解している。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3
	⑯ 合理的配慮について理解している。	YESの割合	100	72.7	63.6	72.7	72.7	63.6	53.3

事前アンケートの結果をもとに、研修部職員研修係と講師と研修内容について協議し、発達障害に対する基本的な知識と理解を図る理論的内容と質問項目⑩に関する具体的な指導や支援について取り入れるようにした。第1回キャリアアップ研修の概要は表15のとおりである。

表 15 第1回キャリアアップ研修の概要

期日：平成28年6月17日（金）16:00～17:00	第1回キャリアアップ研修の様子
テーマ：発達障害の障害特性とその理解	
参加人数：60名程度	
研修内容	
基礎編：発達障害の理解（LD, ADHD, 自閉症, アスペルガー症候群）	
小グループによるある一つの事例から協議	
応用編：発達障害について各自で持ち寄った各学級の児童生徒の事例検討（小中高高等部の3学部が合同で協議検討）	

研修実施後に同様のアンケートを行い、研修前後の理解の変容を調査した。その結果を表 14 下段に示す。

研修後の研修部職員研修係と研修を受けた職員の感想から、アンケートなど次回に向けた改善点も見られる。これらの感想等を研修日よりして発行し、研修後の共有を図った。

表 16 研修後の研修部職員研修係の感想

- ・事前事後に行った 16 項目のアンケートは項目が多すぎた。内容を精選する必要がある。2 択でなく 3 択くらいが望ましい。
- ・新たな行事と重なってしまったので申し訳なかった。次回からは夏期休業期間であるのでそのようなことは無いと思うが…。
- ・事後アンケートの結果がよかった（向上した）ので安心した。次回も同様に運営していきたい。
- ・職員研修係を中心に事前準備から運営することができた。

表 17 研修後の職員の感想と研修日より

- ・今回基礎編に参加しましたが、さらに応用編も聞いてみたいと思いました。  
(基・小・男・40代)
- ・基礎編と応用編に分かれてあったので、自分に合った話が聞けてよかったです。  
(基・小・女・20代)
- ・事例を多く出していただいたので、とてもわかりやすかったです。  
(基・小・女・20代)
- ・クラスのある生徒と重ねて聞くことができた。  
(基・中・男・50代)
- ・子ども達のもつ様々な特性の見方を柔軟にし、伸ばせることをたくさん見つけていきたいと改めて感じた。(基・高・女・20代)
- ・ぼんやりと理解していたものが「なるほど」と感じるものが多くありました。  
(基・高・女・40代)
- ・3 学部と先生方と一人の子どもに対して協議できたことはよかった。  
(応・高・男・40代)
- ・各学部の特色がなんとなくわかり長期的な対応を知ることができた。  
(応・高・女・40代)
- ・各学部の先生がある事例を元に協議できたことで成長段階に応じた支援を考える有意義な時間となった。(応・小・女・50代)



### <第 1 回キャリアアップ研修の考察>

事後アンケートの項目②から⑦の発達障害に対する基本的な理解が深まったことがうかがえる。また、項目⑧⑩から指導や支援に関する実践的な理解も図ることができたと考えられる。

職員の感想から基礎編と応用編に分かれての実施や研修内容に事例検討などの交流場面を仕組んだことで一定の評価を得ている。

### ② 第 2 回キャリアアップ研修

講師と研修部職員研修係との連携の中で、本研修では、現在、特別支援学校での活用が求められているタブレット端末の研修内容に取り入れることを確認した。その上で表 18 による事前アンケートを基に本校職員の ICT に関する実態を調査した。

この事前アンケートの結果をもとに、また、ICT の特質上、苦手意識や興味関心等に個人差があることから、基礎編では、ICT 全般に関する幅広い理解を図ること、応用編では、タブレット端末の活用の特化し理解を深めることを目的とし、教師の参加希望を取り、表 19 の内容で実施した。

表 18 事前事後アンケートとその結果（上段が事前、下段が事後）

質問項目						
①	何らかの方法でICTを授業で活用することができる。					
②	ICT機器を開発したり、既存の物を改良したりすることができる。					
③	障害種に応じてICTを活用することができる。					
④	児童の実態に応じてICTを活用することができる。					
⑤	積極的にICTを活用していきたいと考えている。					
⑥	自分のタブレットを持っている。					
⑦	いくつかおすすめのタブレットのアプリを知っている。					
⑧	タブレットを授業で活用することができる。					
⑨	児童生徒の実態や学習内容に応じてタブレットを活用することができる。					
⑩	積極的にタブレットを活用していきたいと考えている。					
事前	質問項目	①	②	③	④	⑤
	YESの割合	73.5	34.2	52.1	56.7	80.8
	質問項目	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	YESの割合	34.3	47.8	45.4	36.2	83.5
事後	質問項目	①	②	③	④	⑤
	YESの割合	92.7		83.6	87.2	94.5
	質問項目	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	YESの割合		40.0	47.2	47.2	87.2

表 19 第 2 回キャリアアップ研修の概要

期日：平成 28 年 7 月 29 日（金）14:00～15:30

テーマ：ICT を活用した授業作り

参加人数：80 名程度

第 2 回キャリアアップ研修の様子

研修内容：

基礎編：ICT 機器の紹介、ICT 機器を使った授業の実践、ICT 機器を使っの演習

応用編：タブレット端末の基本的操作、アプリの紹介、授業での具体的活用例



研修実施後の事後アンケートの結果を表 18 の下段に、研修後の研修部職員研修係と職員の感想を表 20、表 21 に示す。

表 20 研修後の研修部職員研修係の感想

- ・夏期休業中に行ったことで、多くの参加者を募り行うことができた。
- ・前回を経験したことでアンケートの実施、回収等スムーズに行うことができた。
- ・タブレット端末等の機器を他校から借りる等して台数を増やして実施するとさらに効果的であったと思う。
- ・書籍や機器を手にとって見たり、触ったりできたのがよかった。

表 21 研修後の職員の感想

- ・ICT は少し抵抗があったけど、簡単に使えるものがあることを知ったので実際に使ってみよう (基・小・女・40代)
- ・重複障害の児童にも機器の活用によって、自己選択の機会を仕組むことができると感じた。(基・小・女・20代)
- ・実際高価なものもあり、私物での活用が主になるので、学校で購入してもらおうと活用も増えていくのではないかな。(基・中・男・50代)
- ・スキルを高めていくためには、もう少し研修を積み必要がある。(基・高・女・30代)
- ・担当している生徒にも使ってみようと思うアプリがあった。(応・中・男・50代)
- ・タブレット端末を購入したばかりだったので、使い方を聞くことができてよかった。(応・高・女・20代)
- ・国語や算数などの教科に対応したアプリがとて多いことに驚いた。(応・高・女・40代)
- ・授業での活用方法をさらに考えていきたい。(応・中・女・20代)

### <第 2 回キャリアアップ研修の考察>

事後アンケートの結果と教師の感想から専門性の向上は図られ、ICT の授業での活用への意欲



表2-2 第2回キャリアアップ研修の実証授業

授業者	中学部3年・20代・教諭・女性
授業内容	教科領域：生活単元学習 単元名：「高等部へGO」 高等部への入学に向けて、3つのグループを編成し、高等部の「学習」「生活」「行事」の3つの内容について各班にて調べ学習を行う。調べたことを絵や文字で模造紙にまとめ、発表会を設け、そこで発表する。発表会では、ipadを使って録画をしたり、これまでの練習の様子を電子黒板で提示して前時を想起させたりなどの支援を行う。
授業者の感想	キャリアアップ研修でipadの基本的操作を学んだことが非常に役に立ち、実際に授業で使ってみようと思いきや本単元で挑戦してみることになりました。電子黒板については学部の方と一緒に指導案審議を通して、活用方法等を考えていただいたのが心強かったです。実際授業で活用してみても、ICTの視覚的支援は子どもたちの反応や集中力の持続等にも効果的であることが実感できました。

も高まったことがうかがえる。表2-2の実証授業からは、相談等から授業に備えるなどキャリアアップ研修を機に互いに学び合う姿も見られ始めたようである。また、キャリアアップ研修を通して、支援のヒントをつかみ、実践にいかすことができていると考える。

## 7 全体考察

### (1) キャリアアップ研修後のアンケート調査

各キャリアアップ研修後に理解の深まりについてアンケートを実施した。どの研修においても高い割合で理解が深まっており、「教師のニーズを把握した研修」「組織化された中で運営される研修」「学ぶべき内容が精選された研修」の3つの観点から実施することが有効であったと考える。

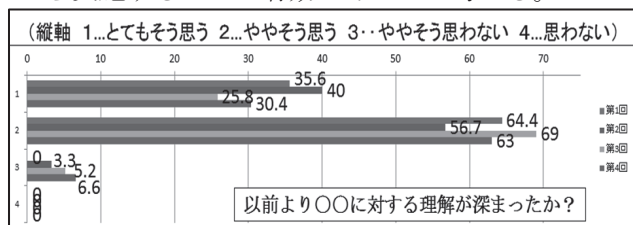


図7 キャリアアップ研修後の意識調査

「教師のニーズを把握した研修」については、図8のアンケート結果から、ニーズを把握するアンケートが教師の学びたい内容、課題に対応できたと考える。

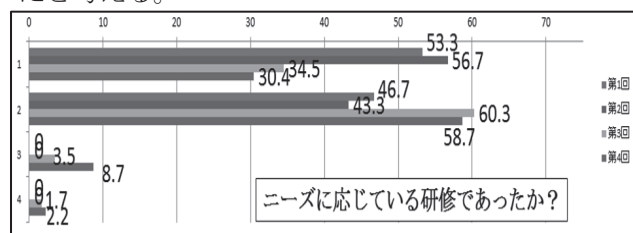


図8 キャリアアップ研修についてのアンケート

「学ぶべき内容が精選された研修」については、研修テーマに対し基礎編と応用編の2つを設定したことで、図9に示すように教師の力量に合う研

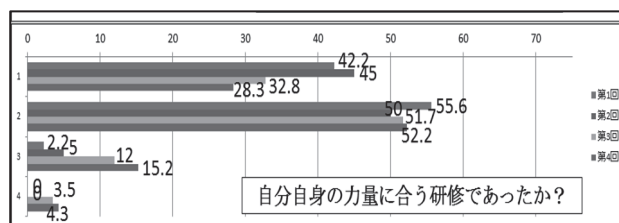


図9 キャリアアップ研修についてのアンケート②

修を実施することができたと考える。

### (2) 研修部職員研修系の感想

表2-3 研修部職員研修系の感想

- ・係と研修の講師とが連携して研修内容を決めていくなどして運営することができたと思います。
- ・アンケートを細やかにとったり、研修後にお便りを出したりしたので、昨年以上に学校全体の研修という雰囲気がありました。
- ・アンケートをもとに次年度のキャリアアップ研修を計画していかなければと思いますが、回収等に工夫が必要である。

「組織化された中で運営される研修」について、職員研修係会の感想にもあるように、組織的に学校全体の研修として運営できたことがうかがえる。

## 8 成果と課題

- 「教師のニーズを把握した研修」「組織化された中で運営される研修」「学ぶべき内容が精選された研修」3つの観点からキャリアアップ研修を実施したことで、校内研修の充実に関し一定の成果が見られた。
- 実践授業者の感想からキャリアアップ研修を受けての有用感を得るための工夫や実証授業の在り方を検討していく必要がある。
- 基礎編、応用編のキャリアアップ研修にとどまらず、さらなる専門性の向上に関する研修としてマスターレベルの研修を検討していきたい。

## 主な引用・参考文献

- 福岡県教育センター 2013 校内研修のすすめ方 ぎょうせい  
 太田俊己 2001 知的障害教育担当教員に求められる専門性 特別支援教育No.3  
 静岡県教育センター 2008 校内研修の活性化に関する研究 砂田真美・是永かな子 2009 特別支援学校教員の授業力向上のための校内研修  
 湯浅恭正・宮井清香・広瀬信雄、2008 よくわかる特別支援教育 ミネルバ書房

## 謝辞

本研究をまとめるにあたり、研修機会を与えて頂き、研修推進のご支援を頂きました福岡県教育委員会に心より感謝申し上げます。また、在籍校の校長先生をはじめ、関係の諸先生方には多大なるご協力を頂きましたことを深く感謝申し上げます、謝辞といたします。